

ネブリハの『羅西辞典』とコリヤードの『羅西日辞典』  
El *Diccionario latino-español* de Nebrija y  
el *Diccionario latino-español-japonés* de Collado

堀田 英夫  
HOTTA Hideo

ネブリハのスペイン語とラテン語の対訳辞書は、後年の対訳辞書に多くの影響を与えたとされている。

「ネブリハ[の辞書]は、縮められ、公教要理や実際の生活上の必要に合うようにされて、宣教師たちによって編まれたアメリカ大陸や太平洋の島々の先住民の言語の語彙集の基礎ともなった」 Gili Gaya(1947:x).

「ネブリハの羅西辞典は、...その当時、またその後も長く大成功を取めた。...例えば、カレピーノや、Hadrianus Junius の多言語辞書などは、ネブリハからそのスペイン語を取っている」 Colón & Soberanas(1979:9).

これらの言及から、ネブリハの辞書と、ポルトガル人やスペイン人キリスト教宣教師による日本語との対訳辞書との関係が推測される。本稿の目的は、辞書史の観点から両者の関係の内、ネブリハとコリヤードの辞書との関係を調べることにある。

## 1. スペイン語(対訳)辞書(出版)史におけるネブリハの辞書

印刷された最初のスペイン語対訳辞書は、1490年の Alonso de Palencia: *Universal vocabulario en latín y romance*, Sevilla である。一頁の左側の段にラテン語辞書、右側にスペイン語辞書を並べたような形式になっている。すぐ後にネブリハが、これより優れた辞書を出した。それが、1492年の *Lexicon hoc est dictionarium ex sermone latino in hispaniense*<m> である。同じ頃<sup>1)</sup>に、歴史上最初の西羅辞典 *Dictionarium ex hispaniensi in latinum sermone*<m><sup>2)</sup> も編纂している。両者とも、一頁が二段になっていて、各段48行で、一行に、見出し語と訳語が並べられている。Gili Gaya (1947:IX) によれば、西羅辞典は、実質的には、羅西辞典をスペイン語から引けるように並べ替えたものである。

このネブリハの対訳辞書の影響を、後年の主な辞書を16世紀までに限り、序文などで年代順に見ていく。まず、最初のアラビア語との辞書、1505年の Pedro de Alcalá: *Vocabulista Árábigo en Letra Castellana*, Granada の序文にネブリハの名がある。

「私は、アラビア語に移すためにいくつかある語彙集のうちひとつを選ぶことに決めた。そして、とりわけ、我らのカスティーリャ語には、あの高潔で賢明な師、アントニオ・デ・レブリハが編纂した語彙集がふさわしいと思われた。それに私はいくつかの名詞や動詞それにその他の品詞を加えた」 Vifaza(1893:809-910).

アメリカ大陸先住民言語の最初の辞書である、1555年の *Alonso de Molina: Vocabulario en la lengua castellana y mexicana*. (1571年の第2版にナワトル語スペイン語部追加)にもネブリハの名前がある。

「動詞のスペイン語は、不定詞で載せられるであろう、アントニオ・デ・ネブリハが語彙集でそうしたように」(AVISO TERCERO)、「メキシコ[ナワトル]語で始まるようなもう一つの語彙集は、アントニオ・デ・ネブリハがしたのに合わせても、我らのスペイン語で始まるものに比べて劣らず有用であろう」(Prólogo al Lector de la segunda parte).

スペイン語とイタリア語との最初の対訳辞書、1570年の *Cristóbal de las Casas: Vocabulario de las dos lenguas toscana y castellana*, Sevilla. については、復刻版に序文を寄せた *Lope Blanch*(1988:XVII) は、「実際、ラス・カサスがネブリハに負っているのは著作全体において明かである」と書いている。

最初の英語との対訳辞書 *Richard Percyvall: BIBLIOTHECA HISPANICA Containing a Grammar, with a dictionarie in Spanish, English, and Latine, Enlargede with the Latine by the aduise and conference of Master Thomas DOYLEY*, London, 1591 には、ネブリハと、上記のカサスの名がある。

「しかし結果としてわかったように他のものでは有り得なかった、なぜならネブリハとカサスに従い、私は彼らの轍を踏んだから」(To the Reader).

## 2. 吉利支丹辞書におけるコリヤードの辞書

ヨーロッパ語と日本語との最初の対訳辞書である、『羅葡日辞典』*DICTIONARIVM LATINO-LVSITANICVM AC IAPONICVM ex Ambrosii Calepini volumine depromptum* (Amacusa, 1595)には、題名にカレピーノの名が含まれている。『日葡辞書』*Vocabvlario Da Lingoa de Iapam, Nagasaqui*, 1603-1605. が出版されて後、日本では、キリスト教の禁圧が始まって、ポルトガル人やスペイン人宣教師による日本語研究も困難な条件のもとで続けられることとなった。スペイン語との対訳辞書は、1630年に『日西辞書』*Vocabvlario De Iapon declarado primero en portvgves* (Manila, 1630)、そして1632年にコリヤードによる『羅西日辞典』*Diego Collado: Dictionarivm sive Thesauri Linguae Iaponicae Compendivm* (Roma, 1632)が出版された。

このコリヤードの辞書は、3部からなっている。1)「正編」*Dictionarivm* (pp.5-146), 2)「補遺」*Praetermissa* (pp.147-156), 3)「続編」*Additiones* (pp.165-353)。ラテン語の見出しに、スペイン語、日本語訳が付けられ、それぞれの部でアルファベット順の配列になっている。自筆原稿がローマに保存されていて、大塚(1966)によれば、正編と補遺については、これがもとになっていて、続編は、原稿末尾の次の文面から、カレピーノをもとに

つけ加えられたとされている。

「もし神のおぼしめしがあるならば、機会をえた時にカレピヌスの辞書の順序にしたがい、いまこの辞書にかけていると思われる語—それは多いことであろうが—で続編を作ろうと思っている。」(大塚訳 1966:11) (原文: 大塚他編 1985: 翻刻 175, 影印 455)

このコリヤード原稿における言及を確認するために、松岡(1991)は、羅西日辞典の続編の部分と、カレピーノに基づくと題名にある羅葡日辞書とを比較している。コリヤードの羅西日辞典の続編1000語を、羅葡日辞典との日本語訳語の共通部分を調査し、615語・句、54.4%の共通という数字を出している。

コリヤードの日本語文典にはネブリハの名が出てくるけれども、コリヤードの羅西日辞典も含めて、吉利支丹語学の対訳辞書には、ネブリハの名は出てこない。ヨーロッパや、アメリカ大陸の対訳辞書に見られるネブリハの対訳辞書の伝統は、日本語との辞書では、消えてしまっているのだろうか。それともネブリハの名は言及されないけれども直接にせよ間接にせよ、なんらかの影響が残っているのだろうか。

### 3. 比較

ネブリハの羅西辞典と、コリヤードの辞書の羅西の部分と比較して、コリヤードの辞書にネブリハの影響がどの程度あるかを調べてみる。今回は、ラテン語の A ではじまる見出しの項目で両者を比較することにする。使用した版は、以下のものである。

Nebrija, Elio Antonio de(1492), *Diccionario latino-español*, Salamanca, facsimil con estudio preliminar por Germán Colón y Amadeu-J. Soberanas, Barcelona, Puvill, editor, 1979.

Nebrija, Elio Antonio de(1492), *Dictionarium latino-hispanicum*, Salamanca: Impresor de la Gramática de Nebrija, CNUM 1498 (BOOST 2078). Cat. 1256 (=I 1778). Transcr.: Antonio Cortijo, en *Admyte (Archivo Digital de Manuscritos y Textos Españoles)* vol.1, Madrid, Micronet S.A. 1992 (Windows 3.1用 CD-ROM).

Collado, Diego(1632), *Dictionarivm sive Thesauri Linguae Iaponicae Compendivm*, Roma (コリヤード『羅西日辞典』), 大塚光信解題・索引, 1966, 京都、臨川書店。

ネブリハの羅西辞典の A ではじまる見出しは、上記の Antonio Cortijo 入力ファイルの行数で、1552、コリヤードは、筆者の入力で、三つの部分を合計すると、859 であった。二語以上の結びつきが見出しとしてあげてある場合や、見出し語に同じ語があげてある場合などがあるので、語数とは一致しない。引用にさいし、コリヤードの辞書については、ページ数と、左右の欄(i:左、d:右)を示し、それに、大塚(1966)にならい、「続編」Additiones

(pp.165-353)については、「\*」、「補遺」Praetermissa (pp.147-156)には「\*\*」、をつけ、この星印をつけない「正編」Dictionarivm (pp.5-146)からの引用と区別した。辞書の日本語部分の検討はしていない。また日本語ローマ字のアクセント符号も、正確に読みとれていない。ネブリハの辞書からの引用には、ページ数など何も付けていない。

3.1. ネブリハとコリヤード両方にあがっているラテン語見出しは、調べ得た範囲では、452あった。(一部語形の違いも含めている)。これは、ネブリハの1552の見出しの29.1%、コリヤードの859の見出しの52.6%である。

3.3.1. 上記のうち、30の見出しは、同じスペイン語訳があげられている。スペイン語形が変わっているものもある。(正編;17、補遺;1、続編;13 = ネブリハ;30)(Arca は、コリヤードで日本語訳語のみが異なる2つの見出しがある。) (以下引用は、一部のみ)

1-1) *Abyssus. i. por abismo agua sin hondon*

*Abyssus. abismo agua sin fondo [socò nài fùchi] 5-d*

1-2) *Acetum. i. por el vinagre*

*Acetum,i. vinagre [su] 6-i*

1-3) *Addisco. is. por deprender .a .i*

*Addisco,is. aprender [xinàn o ùqe,uru] 6-d*

1-4) *Adeps. ipis. por la enxundia*

*Adeps. enxundia [còieta aburà] 6-d*

1-5) *Anguilla. <a>e. por el anguilla*

*Anguilla. anguilla [vnagui] 9-d*

3.1.2. 同じ語の見出しが二つ以上あって、共通する訳語を持ったものとは他に、別の訳語を持った見出しがあるものがある。"Adiutorium"、"Ascendo"は、コリヤードで二度(以上)見出しにあがっている。逆に、"As"は、ネブリハで三つの見出しにあげられている。コリヤードでの見出しの重なりは、日本語の訳語が理由となっていると考えられる。スペイン語訳が同じ場合でも、日本語訳は異なっている。(正編;5、補遺;0、続編;1 = ネブリハ;5)

2-1) *Adiutorium. ij. por el aiuda*

*Adiutorium,ij. ayuda [taiòri] esse adiutorio. ser de ayuda [tayòri ni nari,u] 7(9)-i*

*Adiutorium,ij. socorro y ayuda [co~riòcu] 7(9)-i*

2-2) *Ascendo. is. por subir*

*Ascendo,is. subir [nobòri,u] 12-d*

Ascendo, is. subir [nòri, u] 12-d

Ascendo, is. subir a cauallo [mma ninòri, u] 12-d

2-3) <A>s. assis. por la libra de doze onças

As. assis. por la eredad toda entera

As. assis. moneda fue de valor de una blanca

As, assis. libra de doze onças [icqin] 175-d-\*

3.1.3. スペイン語訳語の名詞形容詞の語順が、ネブリハとコリヤードで異なるもの。

(正編;2、補遺;0、続編;0 = ネブリハ;2)

3-1) Albus. a. um. por cosa blanca

Albus, a, um. blanca cosa [xiròi] 8-d

3-2) Amarus. a. um. por cosa amarga

Amarus, a, um. amarga cosa [nigài] 9-i

3.1.4. 18の見出しは、同じスペイン語訳を持っているが、ネブリハの方に、コリヤードには無いラテン語の情報がある。ラテン語の書物を読んだりするためという目的からと思われる。

(正編;9、補遺;0、続編;11 = ネブリハ;18(+1:同義語へ送り))

4-1) Abdo. is. abdid. por esconder. actiuum

Abdo, is. esconder [cacuxi, u] 165-i-\*

4-2) Admirabiliter. aduer<bium>. por maravillosa mente

Admirabiliter. marauillosamente [jinbenni] 169-i-\*

4-3) Absens. tis. participium ab absu<m>. por ausente.

Absens, tis. ausente [rusu] 167-i-\*

4-4) Aduersus. aduersum. pr<a>epositio. por contra

Aduersus, vel aduersum. contra [taixite] 169-d-\*

4-5) <AF>fatim. aduerbium. abundante mente

Affatim. abundantemente [juntakuni] 171-i-\*

3.1.5. 84の見出しは、同じスペイン語訳を持っているが、コリヤードの方が、ネブリハよりも、スペイン語の語数が少ない。ただし、見出しもその分の増減のあるものも含む。

(正編;36、補遺;3、続編;48 = ネブリハ;84(+4:同義語へ送り))

5-1) Abacus. i. por el aparador delos vasos

Abacus. aparador [tàn] 5-i

5-2) Abax. acis. por aparador o ataifor morisco

- Abax,cis. aparador [tàna] 165-i-\*
- 5-3) Ablactare infantem. por destetar niño  
Ablacto,as. destetar [chivo nõqe,u] 147-i-\*\*
- 5-4) Abluere rem. por lavar alguna cosa .a .i  
Abluo, is. lauar [arai,ò] 166-i-\*
- 5-5) Abnormis. e. por cosa sin regla  
Abnormis,e. sin regla [raxximonno] 166-d-\*

3.1.6. ネブリハの訳語よりも、コリヤードのスペイン語の方が、語数が多いものは、23あった。一部の見出しについては、ネブリハの見出しにラテン語の情報があるもの、またコリヤードに複数の見出しがあり、見出しによっては、語数に違いがないものがあり、前項に分類してもよいものが含まれる。 (正編;14、補遺;0、続編;16 = ネブリハ;26)

- 6-1) A. abs absq<ue> pr<a>epositiones ablatiui. por de  
Abs. pr<a>epositio ablatiui. por de.  
A, Ab, abs. de, o desde [càra, yòri] 165-i-\*
- 6-2) Abbrevio. as. por abreuiar. actiuum .i.  
Abbrevio,as. abreuiar, resumir [riàcu xi,uru] 5-i
- 6-3) Aduigilo. as. por velar para hazer algo .n .v.  
Aduigilo,as. velar, hazer diligentemente qualquiera cosa [mega samere cocòrogaqe,uru] 169-d-\*
- 6-4) Affingo. is. por añadir .a .i  
Affingo,is. añadir, adereçar añadiendo [tçugui navòxi,u] 171-i-\*
- 6-5) Age aduerbium hortandi. por ea  
Age. ea pues, acaba ya [iza] 171-d-\*

3.2. 残りの見出しは、ネブリハとコリヤードとで、異なるスペイン語訳語があげられている。

- 7-1) Abauus. i. por el tercero abuelo  
Abauus. visaguelo [fivogi] 165-i-\*
- 7-2) Abominabilis. e. por cosa abominable  
Abominabilis. aborrecible [nicui àtçu] 166-d-\*
- 7-3) Abnuo. as.(debe decir:"is") por negar sacudie<n>do la cabeça .n .v  
Abnuo,is. dezir de no con la cabeza [cobe vo fùtte yiahari,u] 166-d-\*

見出し語形が異なるものもある。

- 8-1) *Abdicare filium. por deseredar lo en vida*  
*Abdico,as.desheredar,y privar de qualquiera cosa[tòri nòqe,ùru]165-i-\**
- 8-2) *Abducere rem a re. por apartar uno de otro*  
*Abduco, is. llevar por fuerça o de grado [fiqiguxe,uru] 165-d-\**
- 8-3) *Absentia(e). <a>e. por el ausencia no presencia*  
*Absentia a patria. ausencia fuera de su tierra [zàitacu] 5-i*
- 8-4) *Auris auris. por la oreja*  
*Aures. orejas [mimi] 177-d-\**

3.3. ネブリハにはあって、コリヤードにない語は、見出し数が、1552と859と異なることからわかるように、多くある。以下、いくつか分類した。

3.3.1. 序文の中でコリヤードは、文法を学ぶ際に学ばなければならない基本的な語は載せなかったと書いている。

「初歩的な、あるいはかなりの程度の文法の研究（これは初めに徹底的に知らなければならない）によって取りあげられることは、この辞書には見えないことであろう。たとえば、文典ですでに扱った数・多くの抽象名詞・形容名詞も、その他既述の文法的規則から明らかに察せられることからは省略されている」（大塚訳 1966:9), (原文: *el prólogo del "DICTIONARIVM": 3*)、「できるだけ簡単な補遺を...作った。文法上の法則の中でみいだされる副詞と抽象・固有名詞同様形容名詞とははぶいた」（大塚訳 1966:10), (原文: *el prólogo de "ADDITIONES": 163*)

ただし、今回調べた A の項目ではないが、*Vnus,a,um. uno. [fitotçu] 351-d-\**, *Duo. dos [ninin] 214-d-\**, *Tres,tria. tres [mitçu] 343-d-\** などは続編に掲載してある。

3.3.2. 固有名詞と地名形容詞。

- Athen<a>e. arum. ciudad dela region attica*  
*Atheniensis. e. por cosa de aquella ciudad*  
*Asturia. <a>e. por la sturia region de españa*  
*Asturica. <a>e. por astorga ciudad de españa*  
*Asturicus. a. um. por cosa de asturias*

3.3.3. ギリシャ語起源の語、および外来語。

- Acroterium. i. interpretatur promontorium*  
 <l. *acroteria* < gr. *ακρωτηριον*, *extremidad*  
*Aeon. interpretatur s<a>eculum unde <a>euum*  
 <l. *aeon, aeonis* < gr. *αιων*, *el tiempo, la eternidad*

Aesar. lingua hetrusca interpretatur deus

Adad. lingua syriscà interpretatur sol

3.3.4. 派生語。Collado には、"Acetum" や "Anser" はあるが、ネブリハにある "Acetarius" や "Anserinus" はない。

Acetarius. a. um. por lo q<ue> come con vinagre

Acetum. i. por el vinagre / Acetum,i. vinagre [su] 6-i

Anserinus. a. um. por cosa de ansar

Anseratim. aduerbium. por a manera de ansar

Anser. eris. por el ansar o pato / Anser,eris. pato,ansar [afiru] 10-d

3.3.5. その他。

Abactor. oris. por el ladron del ganado

Abamita. <a>e. por la ermana del tercero abuelo

Admiror. aris. por se maravillar de algo .d .iij.

ただし、この語は次のような語句の見出し中にある。

Adimiror quomodo vsque nunc vixerim. espantome yo mismo de como e biuido hasta agora [soregaxi vâre nagàra inòchi imamàde iqite coto mo fuxiguinàri] 7(9)-d

3.4. コリヤードにはあって、ネブリハにない見出し。

3.4.1. 正編の部は、日本語から見出しを立てたという理由から、ネブリハにはない見出しがコリヤードにはある。例えば、ラテン語の前置詞 ABSQUE の単独での見出しは、コリヤードの続編にあるが、正編には、この前置詞で始まる10の見出しがある。

Absque. sin [no,note,nàqu xite] 167-i-\*

Absque dolore. sin pena [curùxi caràzu xitè.] 5-i

Absque dubio. sin duda aprouando [guenimò.] 5-i

Absque eo quod vestem mutaret.sin mudarse vestido[xitàcu ie mo caieràzu]5-i

Absque excusatione. sin excusa ni replica [iuino.] 5-i

Absque lesione. sin lesion [tçutuçuga note.] 5-i

Absque modo. sin guardar modo,como cairer,sin reparar [io no.] 5-d

Absque sensu et iuditio. sin seso [buiòcu.] 5-d

Absque substantia. sin sustancia ser [mimonài] 5-d

Absque vrbanitate, et respectu seu aduertentia ad ipsam. sin reparar, ni



cumplimiento [xinxàcu vo caieri mizu.] 5-d

Absque vtilitate. sin prouecho [musòcu ni.] 5-d

これらは日本語の否定などの表現をいくつか拾うために見出しをたてていったものと思われる。スペイン語は、ラテン語と同じく **sin** という前置詞ひとつをあげておけばよいので、ネブリハは一つの見出しだけである。

Absq<ue> pr<a>epositio ablatiui. por sin

3.4.2. その他、コリヤードにはあって、ネブリハにない見出しには、ラテン語での合成語、派生語と思われるものなどがある。もともなった語のネブリハの項目と並べて引用する。

Abacion. aparador pequeno [codàna] 165-i-\*

Abacus. i. por el aparador delos vasos

Abditum,i. lugar secreto [cacure docòro] 165-i-\*

Abdo. is. abdidì. por esconder. actiuum

Abedo,is. tragar [cuifatàxi,u, tabesumaxi,u] 165-d-\*

Edo. is. uel. es. por comer. a. i

Aberrans, peccator. hombre malo y descaminado [moàcu buto no] 5-i

Aberrare a loco. por se desviar de lugar alguno

#### 4. まとめ

ネブリハの羅西辞典(Salamanca, 1492)と、コリヤードの羅西日辞典(Roma, 1632)の A の項目の比較から、両方の辞書に共通してあるラテン語見出しは、調べ得た範囲では、452 で、ネブリハの1552の見出しの29.1%、コリヤードの859の見出しの52.6%である。同じ見出しの中で、ネブリハとコリヤードの訳語が、全部または、少なくとも一部分に共通部分があり、その部分について、直接的、または、間接的にコリヤードがネブリハの辞書の影響を受けていると推測できるものが、3.1.6.までの項目数で、正編;83、補遺;4、続編;89で計176項目。ネブリハの項目では、170項目であった。コリヤードの176項目は、全体の859項目の、20.5%。ネブリハの170項目は、全体の1552項目の、11.0%である。調査方法が異なるものの、松岡(1991)のコリヤード続編1000語における、羅葡日辞書との日本語訳語、615語・句、54.4%の共通という数字と比べても、かなり低い数字といってもよいであろう。これは、両者の辞書の編纂時期の隔たりを示すとともに、これらの辞書の編纂の目的の違いも示しているように思われる。コリヤードの三部別の数字からは、日本語文献から単語を拾って、西日辞書を作成し、それにラテン語を付けたとされる正編と、カレピーノの辞書に基づいて補ったとされる続編との違いは見られなかった。筆者が見ることができたカレピーノの版(1513, 1559)は、ラテン語をラテン語で説明した辞書の各項目に他の言語の訳語を付けた形式になっ

ている。この辞書本文の形式だけを比べて見ると、コリヤードは、カレピーノよりも、ネブリハに近い。ネブリハが先駆となったスペイン語辞書編纂の伝統を、コリヤードがいくらかなりとも受け継いでいるのではないかという疑問は、まだ捨てきれない。はっきりとした結論のためには、カレピーノなど、他の辞書とコリヤードとの関係をさらに調べる必要がある。

(1995年9月)

#### 注

(0) 本稿は、日本ロマンス語学会第33回大会(1995年5月21日、青山学院大学)における口頭発表を文章にしたものである。

(1) 羅西辞書の後に西羅辞書が編纂刊行されたとするのが一般的である。しかしこれについての疑問を García Macho(1987:94-5) が提示している。1) 羅西に載っていて、西羅にないスペイン語(689語=509語+固有名詞180語)があることの説明がつかない。逆の羅西になくて、西羅にある語も少なくない(1439語=1389語+固有名詞50語)が、これは、羅西で語義を前の説明により省略していることが多いからである。2) 羅西に無い「誤り」がなぜ西羅にあるのか。

(2) 西羅辞書に、刊行年の記載がなく、序文の内容から、二つの可能性が考えられている。1495年と、1492年である。アメリカ大陸先住民言語起源の *canoa*(カヌー) という語が載っているため、1495年の刊行とするのが一般的である。Quilis(1980:9-10)

#### 引用文献

- 大塚光信、小島幸枝共編(1985)『コリヤード自筆西日辞書 - 複製・翻刻・索引および解説』、京都、臨川書店。
- 大塚光信(1966)「解題」『コリヤード羅西日辞典』京都、臨川書店。
- 松岡光司(1991)「羅葡日対訳辞書が羅西日辞書に与えた影響 - 語彙の面からの考察」『国語学研究(1) - 16世紀における』東京、ゆまに書房。
- Colón, Germán y Soberanas, Amadeu-J. (1979) "Estudio preliminar" en Antonio de Nebrija, *Diccionario latino-español (Salamanca 1492)*, Barcelona, Puvill.
- García Macho, María Lourdes (1987) "Algunas consideraciones en torno al «Vocabulario» y al «Diccionario» de Elio Antonio de Nebrija" en *RFE*, LXVII, 89-105.
- Gili Gaya, Samuel (1947) *Tesoro lexicográfico(1492-1726)*, Madrid, CSIC.
- Lope Blanch, Juan M.(1988) "Prólogo" en *Vocabulario de las dos lenguas toscana y castellana de Cristóbal de las Casas, Sevilla, 1570* Edición de A. David Kossoff, Madrid, 1988
- Molina, Fray Alonso de (1571) *Vocabulario en lengua castellana y mexicana y castellana Edición facsimile*, México, Porrúa, 1970.
- Nebrija, Elio Antonio de(¿1495?), *Vocabulario Español-latino, Salamanca*, ed. facsimil, Madrid, Real Academia Española, 1951, 1989
- Percyvall, Richard(1591), *BIBLIOTHECA HISPANICA Containing a Grammar, with a dictionarie in Spanish, English, and Latine, Enlargede with the Latine by the aduise and conference of Master Thomas DOYLEY*, London.
- Quilis, Antonio, ed.(1980) *Nebrija, Elio Antonio de, Gramática de la lengua castellana, Estudio y edición*, Madrid, Editora Nacional.
- Viñaza, Conde de (1893) *BIBLIOTECA HISTÓRICA DE LA FILOLOGÍA CASTELLANA*, 1978, Madrid, Atlas.

付記 Admyteで、西羅と羅西が文書選択で入れ替わっている他に羅西辞典のテキストファイルで、筆者の気づいたタイプミス:[ ]内がその前の語形を訂正すべき形。

Abnuo. as [is]. por negar sacudie<n>do la cabeça .n .v

Abrogare magistratum. por renunciar oficio [officio]

Absq<ue> por fin [sin]

Accido. is. por contar [cortar] algo de otra cosa.n.ij

Acutus. a. um. por cosa guda [aguda] & aguzada

Adordior. iris. por ordir o começar [començar] .d.ij

Aduerso. aris. por contrariar a laguno [alguno] .d.ij

Adumbro. as. por cosa corva & retornada [por escurecer algo.a.i]

Arundinetum.i. por le [el] cañaverál